

## 第2回川口市青少年問題協議会 議事概要

- 日時 令和6年1月15日(月) 14時～
- 場所 川口市立青木会館 3階 会議室
- 出席委員(敬称略)  
林委員、渡邊委員、小野寺委員、伊藤委員、丸山委員、近藤委員、森元委員、菊地委員、江原委員、富田委員、小柳委員、稲澤委員、梅田委員
- 事務局 田村子ども部長 小山青少年対策室長 久保田主幹 西澤主査  
大塚主査 田村主事 小笹主事補
- 次第 議事  
(1) 地域や企業との連携について  
(2) その他(連絡事項等)
- 傍聴人 1人
- 会議資料 令和5年度第2回川口市青少年問題協議会資料

## 1 開会

## 2 会長あいさつ（小野寺会長）

## 3 事務局あいさつ（子ども部長）

## 4 本会議について

〈 委員の半数以上の出席により、会議が成立する旨確認 〉

〈 会議録を作成、公開する旨確認 〉

〈 会議は公開であり、本日は傍聴者が1名いる旨確認 〉

## 5 議題

〈 会長が議長となり、議事進行 〉

### 【議長】

本会議の議事録を作成するため、議事録署名人を丸山委員、小柳委員にお願いする。

〈 委員承認 〉

### 【議長】

議題（1）地域や企業との連携について

〈 資料に基づき事務局から説明 〉

### 【議長】

はじめに、青少年対策室の事業に対して連携・協力を図っていくということにどのようなイメージをお持ちかあるいはどのような議論をしていったらよいかなどおひとりずつ1分程度で簡潔にご意見ください。

### 【委員】

コロナ禍の影響で全国的に自殺者や不登校も非常に多いという背景がある。私は仕事関係でなかなか相談できないことを聞く。そういった方々にどうやってアプローチして積極的に取り組んで相談していけるか皆様から意見をしてもらいたい。この前、研修会に参加したら、少年の非行は5歳から兆しが始まっているとのことだ。その背景は、社会性を身につけていない子たちらしい。だから、親子が様々なコミュニケーションを図り社会性を身に付けられればよいが、なかなか芳しくなく難しい課題が多い。

【委員】

5番、6番については、これも両方ともある意味財源不足なのでこのままやるのかやらないのか自体がわからないので、事務局としてどのように考えているのか教えていただきたい。あと、その他に企業にお願いという話だが、今はどれくらいの企業と連携されているのかももう少し説明をしていただきたい。また、予算の部分について例えばふるさと納税とかを子どもたちの事業に充てて財源の確保をしていただきたい。子ども部や教育局とかで一緒に何か連携するといろいろ解決策が出てくると思って聞いていた。

【委員】

青少年まつりは以前私の子どももグリーンセンターで参加させていただいた。昔はグリーンセンターを貸し出してもらい、少年たちが集まって焼きそばを作ったりしたが、飲食はダメだとかマナーが悪くてグリーンセンターを汚すため今は使用ができなくなったと聞いた。昔は子どもに対してオープンな世界だったけれども、貸し出す方が閉鎖的になると、活動の場も全部減ってきているところをまず何とかしなければいけない。あと、三市の船も私の子どもが参加させてもらった。戸田市や蕨市の子どもたちも参加して、そのリーダーが高校生で、島に行ってハイキングしたり、島の家泊まるとの交流があったり、それは本当に非常にいい体験をしてきた。最初行くときには不安でちょっと目が曇っている感じだったが、生き生きとして帰ってきた状況を見ていると非常にいい研修会だったと思っている。だから、子どもを取り巻く環境が段々閉鎖的になってきている状況なので、もうちょっと企業を通してオープンな環境になれば、子どもが行きやすいような形になってくると思う。

あと、学習支援の会場が不足しているのであれば、例えば学校だとイベントスペースが結構あると思うので、打診をしてみてもどうかというところと基本的には先生や地域でリタイヤしている先生とかを絡めた形の方が非常によい。学習の姿勢は、ある程度決まった時間でのリズムを作って、そこを企業とタイアップしていくような形にした方が組織的によいと思った。

【委員】

6つほど事業紹介があったが、それぞれ規模も対象もバラバラでどこを言っているかわからない。2ページ目の通学合宿は、実施事例を見ると場所ありきなのかなと。協力してもらった地域にもよるが、温度差がある。小学校3、4つとかのPTAにピンポイントにアナウンスするのが1番お金もかからないし、わかりやすいのかなと思う。3ページ目の川口市七つの祝いの内容を充実させるには、幼稚園の団体や保育所の先生に聞いて用意された方がよいと思う。

### 【委員】

事業の対象者がバラバラという印象は私も持った。行事の宣伝PR方法として参加者が小学生の子どもという明確なものもあれば、デッキで啓発活動を実施するのも川口市在住の方ではない一般通行人の方もいると思うので、伝えていく難しさも感じた。

子どもの生活・学習支援事業については、学校の教職員の先生方への周知を充実させてほしいと思っている。担任を持っている若い先生方やこの事業自体は知らない方がいるので、管理職の先生方とか子育て相談のケースワーカーと家庭はつながっているとんでも、みんなで一緒に応援する姿勢をなかなか作りづらい現状がある。利用者の保護者もあまりおおびらに利用していることを言わないで欲しい、ちょっと隠したいという部分もあるかもしれないが、利用がいざ始まると、複数の立場の人が応援・協力する姿勢を作れたらと考えていた。そこに向けてどのような課題があるかなどお聞きしたいと思う。

### 【委員】

コロナで空白期間が生じた間に、事業中止や縮小された話があった。具体的にコロナで事業にどのような影響があったのかお聞きしたいのが一つ。事業を再開する中でその振り返りは非常に大事なことかと思う。また、青少年の子どもたちが各事業に参加した後、色々な変化あるいは成長とか見せていると思うので、それについてもう少しお聞きしたい。それから、地域や企業との連携について、例えばパートナーステーションに登録している幅広い分野の団体や社協のボランティアセンターの団体の中で青少年との関わりに非常に深い関わりを持っている団体も結構多い。そうしたところで何か協力・連携とかも可能ではないかということをも3点目に思った。以上です。

### 【委員】

私は商工会議所女性会として来ている。あと中小企業同友会の方にも入っており、川口にある企業さんたちも青少年の健全育成ということはとても関心がある。それは、子どもたちがやがて大人になった時に自分たちの企業にやっぱり勤めていただきたい。そして、職住近接の理想を川口市に作っていきたいという想いで活動している。なので、ぜひともこの企業との連携については、市の方からお声かけていただきたいのですが、なかなか言えないというなら企業の方からこう何か提案させていただいてもよろしいのか。あと、この6つの事業は今後事業自体を見直すことは考えていらっしゃるのか。このまま事業を続行するにしても目標という数値が見当たらなかった。何かをやるためにはまず目標を掲げていただきたい。そのための予算や対象となる子どもの数、それからサポートできる大人の数などを割り出し、今年度は予算がこれだけに対して、対象者は何人でその中の実績は何%でしたとパーセントで出していただくと非常に実績が分かりやすいかなと思った。それと、もう一つは教育委員会との連携は

できないものなのか。教育委員会とそれから学校・家庭の連携が取れば周知もでき、実際の動きも見えてくると思った。

#### 【委員】

まず、4つの議題にて質問と意見がある。青少年非行防止キャンペーンの企業の協力内容例については協賛で運営しているのか、それとも市の予算で運営しているのか、また予算がある場合はいくらで運営しているかをお伺いしたい。

2つ目は、ポケットティッシュの広告への反応率が約4%であり、他の手法と比べて高い数字を示しているので導入していると思うのですがけれども、例えば時期的にクリスマス用で剥がせるステッカーで別に用意したハガキにペタペタ貼れると子どもも楽しんでもらえる。あとは、ボールペンや時期的にホッカイロとかもよいかも。ターゲット層に対して何を訴えたいかによって手に取ってもらうものも変わってくると思った。

参加者を増やす方法は、例えばボランティアに配ってもらう場合はボランティア証明書の発行。こちらは社会福祉協議会もやられていると思う。あと、1時間とか30分とか時間を細かくすると参加する方のハードルが下がる。他には、ごみ拾いをしながらチラシを配るとボランティア意識の高い方は皆が参加していただけると思うので、街をきれいにしながら非行防止もあると思った。

2の七つの祝いについて、参加者により一層楽しんでもらえるような内容を充実させたいということで、各地域メディアとの協力をお願いしました。例えば、衣装コンテストなどをして埼玉テレビ、J:COM、FM川口、埼玉新聞などと協力して地域メディアに発信しながら楽しんでもらうのが面白いと思った。

3の子どもの生活・学習支援事業について、これは委託費用がいくらぐらいなのか、また今現状リモートを取り入れてやっているのかどうか。というのはリモートを取り入れることによって数が増やせるのではないかなと思った。

最後に青少年まつりについて、運営に関わる財源不足ということで、スポンサーになった地元企業に事例の紹介などをしたらと思う。また、そのスポンサーに対してのメリットを用意する必要がある。例えば、リターンとして当日一緒に市長と一緒に写真を撮れますとか企業のロゴのバナーボードを設置しますよとかパンフレットに掲載しますよとか。金額によって100万円だったら市長からの挨拶、50万円だったらこれっという額によって考えても面白いのかなと思った。

#### 【委員】

2ページの通学合宿ですが、この人数で抽選何人までとした方が、参加率上がると思いますので提案させていただきます。それから、子どもの生活・学習支援事業ですが、1人の先生に対して生徒何人ぐらいなのか、それと決まった単位数があるのか確認

したいので質問させていただきます。先ほどから皆さんが気になっています三市青少年の船ですが、戸田ボートレース企業団の助成金のみで運営されていると私は認識している。川口にも川口オートという事業があるので、そちらからもご支援いただければ、少しは運営が楽になると個人的に思うので、検討の課題としてよろしくお願いたします。

#### 【委員】

青少年非行防止キャンペーンは、毎年参加させていただいている。こちらにポケットティッシュ以外の啓発品とあるが、やはり夏はなかなかポケットティッシュを受け取ってもらえない。秋になると、多少手が出てくるというところだ。

船の事業で娘が高校生の時に、学校の掲示板に掲示してあるポスターの事業に友達と参加したいと言ってきた際、学校長の証明などの書類が必要で話をしたら学校に1回跳ねつけられた。事業をやる時には教育委員会の方にも周知をしてほしい。

#### 【委員】

ヒト・モノ・カネというのは共通する課題。協賛金や助成金などの資金面の課題、指導者育成などの人材面の課題、啓発品調達という物品面の課題など、解決するのはなかなか難しい。その事業の趣旨を説明して、賛同していただける企業・団体が見つけれられるかが重要であり、それが非常に苦労するところ。ポケットティッシュ以外の啓発品の調達が難しいようであれば、例えば、ポケットティッシュにトレーディングカードを1枚挟むだけで子どもの興味を引くことができると思われる。クリアしなければならない課題はいろいろあるが、子どもの目線に立ち、何が良いのかを考える必要があるので、実際に学校の先生や生徒に対してアンケート調査を実施するのも効果的と思われる。また、通学時に活用できる防犯ホイッスルや防犯ライトなど、子どもに役に立つという観点で、賛同いただいた団体に協力してもらい、キャンペーンを実施した実例もあるので、連携して事業を推進できればと思う。

#### 【委員】

非行少年の特徴として、結構元気があるけれども、熱を入れてやることがない。それと居場所がないと言う特徴がある。年々共働きの世帯が増えて、家に一人で居て心温まる場所がない。小学生だと今はスマホだとかゲーム、YouTubeを見ていて、中学生になり行動範囲が広がってくると外で集まって悪いことしてしまう流れが昔からある。企業との連携では、子どもたちがいれる場所とやれることについて、行政と連携してできることを我々も議論していきたい。

【議長】

質問が多岐に渡り、いろんな意見がたくさん出たので、これは絞るべきだったのかもしれないけど、事務局から回答をお願いします。

【青少年対策室長】

ご意見の方はこの後、会議の方で議論進めていただきたいと思いますのですが、ご質問の方はお答えできるものはしていきたいと思う。

各事業のいろいろ課題があって継続していくのかという話について、今の時点で事業をストップする方向のものはない。それぞれかなり歴史も古いもので、学習支援のように新しいものもあるが、いずれにしても継続していきたいと思っているので、課題またはその連携に向けてご意見いただければありがたい。

どれくらいの企業と連携をしているのかという質問で、今現在企業と連携しているものはない。強いて言えば、5番6番の事業は、直接市の主催事業ではないけれどもそれぞれの青少年団体連絡協議会または三市の青少年団体がやっているもので、戸田ボートレース企業団からお金が出ている。企業の連携はそれだけだ。

PRの仕方についてのご質問ですけども、それぞれ各事業によって違う。まず、広報紙とかホームページは当然、その他に通学合宿のように直接学校、それから地域にお願いをしたり、チラシを子どもたちに配っていただいたりするところもある。事業によって様々でなるべくやっているが、いいアイデアがあったら教えていただければと思う。

企業の方からご提案いただいてもよいのかという質問だが、もちろんである。いろんな意見を頂戴できればありがたいと考えている。それと事業の見直しについて廃止はないが、意見の中で改善できるものがあれば取り組んで参りたいと考えている。

非行防止で協賛金があるのかという話だが、今は協賛金がなく市の予算で賄っている。それと予算は、啓発品のティッシュだけで3、4万ぐらい。あとは、みんなボランティアで参加している。学習支援事業の委託費用は、いくらかというご質問だが、年々子どもの数が増えて、現在700名ぐらいで、9千万円以上の経費がかかっている。同じく学習支援で、委託事業者のトライグループは何人体制なのかという話ですけど、講師1人について3名ぐらいの子どもを見るような体制になっている。それと、塾のようにみんなが黒板に向かって同じ授業を受けるのではなく、基本的に自主学习でわからないところを先生に聞く形式になっている。

具体的な質問としては以上かと思いますが、よろしいでしょうか。

【議長】

ありがとうございます。あまりにもたくさんのもが出たので、これで進めて今日の内容をまとめて次どうするかを考えていきます。今日は、出た内容に関して皆さん

で討議していただければと思う。

**【委員】**

最初に私も2点質問を出させていただいたかと思う。1点目は、各事業でコロナの空白期間があって、中止ないし事業縮小ということが挙げたかと思うが、特徴的に各事業で具体的にどんな影響があったのか知りたいのと、もう一つは各事業に参加した子供たちが、体験したことでどのような成長や変化があったのかを知りたいという2点の質問です。よろしくお願いいたします。

**【青少年対策室長】**

失礼しました。コロナの影響は、資料の記載のとおり事業中止が一番の影響が大きかった事です。事務局の話ですが、この3年間空いてしまったことで室内の職員が異動して、経験者がいなくなり引継ぎに大きな影響があった。子どもの成長ですと、例えばキャンプや通学合宿はご家庭からすごくたくましくなって帰ってきたとか、子ども自身もアンケートの中で新しい友達ができたとか、少し積極的になれたという意見もあった。目に見える形としてはそういうところだ。長い目で見た時には、子どもたちが何年後かにスタッフ・指導者としてキャンプや通学合宿に加わってくれば大きな成果だと思っている。

**【議長】**

あまりにもいろんな報告が出たと思うが、絞るとすると企業からの協力を得るにはどういったことを考えればいいのか、あるいはどういった働きかけをすればいいのかというところに注目をしていただいてお話をしていただければ、次のステップに進めると思う。個々にやると時間的には非常に無理があると思うので、青少年対策室に対するアドバイスということで、皆さんのご経験の中でご意見をおっしゃっていただければありがたい。どうでしょうか。

**【委員】**

川口商工会議所青年部に所属しております、今176名の会員がいる。その中でどのようにお金を集めるかという例では花火大会があり、私も実行委員をやっておりアドバイスをさせていただきました。そこで、領収書で税制優遇を受けられるのが利点となっており、企業側としては経費で落とせるのは1番重要かと思う。

**【委員】**

小学生の後半から中学生の居場所がないということや自分のやりたいことがわからない場合には例えば川口キッズニアというような企画をして、川口にいる各企業から



そのお仕事を見せて体験していただくみたいなことを、年に1回でもいいのでやっていただいたらきっと協賛する企業がたくさんあると思う。そんなような形の新しい事業をやっていたらなと思っている。

#### 【委員】

まず、議題が地域や企業との連携についてなので、議長がおっしゃったとおりこれからどう連携していくのかという話を進めていくべきだと思った。そこで、先ほど戸田ボートレース企業団との連携しかないというのは逆に驚いた。私は他に市商連という市の商店街連合会の理事もやっている。実際にこういうところにもアピールをしていかないと知っている人が少ないと思った。

中学校では市内の企業を対象とした1日体験で、例えばコンビニやマクドナルドとかと連携をしているので、実際に何かしらのメリットが企業に対して必要かと思う。例えば、PTAですと役員をやると運動会や卒業式で一番前列に座れますというメリットがあるのでやってくれる。市長と写真を撮るとか税制優遇とか市の方でどういったことができるかまず考えて、挙げていただいた方が連携を取れると思う。

#### 【委員】

私も地域貢献事業者としての認定をいただいている。青少年対策室もボランティア活動をした企業にはそのような認定をしていただくとか、経済部と連携を取って行うのもよいと思う。その辺でも風通しのいい川口市にさせていただいたらいいなと思っている。

#### 【委員】

先ほどお話くださったこととクロスすると思うが、かわぐち市民パートナーステーションで夏休み青少年ボランティアスクールという中学生以上の若い層がボランティア体験できる事業がある。民間団体や施設に受け入れ協力いただいて夏休みにボランティアの体験活動ができる制度となっている。また、川口市教育委員会で行っている「川口の元気夢わーく」という中学生の職場体験事業がある。これに様々な企業が体験をできる場をご協力してくださっている。このように地元の民間団体、施設や企業が中学生以上の若い層のために協力・連携を作っていくことは重要なことだと思った。

#### 【議長】

私の経験で市から直接企業にというのは非常に難しいステップのような気がする。私も子ども会からお願いをして、この事業に関して少しどこかが関わっていただいて、そこから寄付していただくというようなことがあった。子どもに関する事業は企業側

も団体も協力したいという方向性は一致していると思う。市から直接企業に対してお金をくださいというのは、多分非常に難しい状況かと思うので、市以外で受け入れ体制を考えるとということが一つだと思う。例えば、商工会議所で1回受けていただいて、それを何らかの形で貢献するということだ。商工会議所が事業に落とし込んでやってもらうという手もあることも可能性として考えていた。直接市が受けるわけではないが内容としては同じことで、そのやり方自体を変えていけばできるかなど。これは今までやってなかったことなので皆さんの方からこういったことならできるのではないのでしょうかというお手本があればいいなと思った。

**【青少年対策室長】**

確かに議長がおっしゃるように市の事業として予算を使用しているものに対して、現金をいただく寄付や協賛は難しいところがあり、分かりづらかったかもしれないが、市主催ではない青少年まつりと三市青少年の船の事業をイメージした。青少年団体連絡協議会とかであれば直接お受けできると考えている。また、方法についてのアドバイスでも構わないので、色々な話があればと思う。

**【委員】**

物の提供で、例えばティッシュの代わりに小冊子をお配りするとかだったらいいわけですね。

**【青少年対策室長】**

ものによると思いますが、高額なものでなければありがたくお受けできると思います。

**【委員】**

青少年まつりですが、今まで業者にステージを設置していただいている。これを商工会議所とか市の商店街の方たちで部材を持ってきて作成していただければ、結構予算的には楽になると考えた。そのあたりのご検討をお願いいたします。

**【委員】**

ストレートにお聞きしたいのですが、この地域との連携というのはどういうことを考えていますか。あと、市商連では部材は持っていない。

**【青少年対策室長】**

町会やいろんなボランティア団体も含めて地域と捉えている。近いところだとPTAやおやじの会も、ご協力いただければありがたいと考えている。あと、先ほどの青

少年まつりの設営は、調査が必要なのでご意見があれば調べてみたいと思う。

**【委員】**

地域の方々と連携でもっと具体的なことはあるか。

**【青少年対策室長】**

それぞれの事業によって違うが、通学合宿で言えば地域に根差しておりますので子どもの面倒を見るようなスタッフとしてご参加いただいてもいいし、七つの祝いであればスタンプラリーのブースを出していただくとかである。やっぱり地域に期待をしてしまうのは、人的なことという気はする。あと、学校の協力事業もあるので、お口添えとかもあるのかもしれない。

**【委員】**

青少年非行防止キャンペーンですが、市立高校の生徒さんたちが来て通行人に声をかけてティッシュを配るのですごく活気があった。高校生たちが楽しそうにやっていた。東川口駅では大人だけだが、東川口駅からスクールバスで帰ってくる高校生たちが賑やかだったので、どうにか高校生を動かして人前でティッシュを配ることで、これから何かのボランティアの時にも周りの方に声をかけやすい状況になるかと感じた。

**【青少年対策室長】**

川口駅の時は市立高校の生徒に参加いただいていますけど、市立高校に限らずなるべくそういうのを働きかけていきたいと思う。

**【委員】**

私は自然や環境関係の市民団体で、高校生にも接点がある。県立高校でもボランティアに関わっていますので、もう少し若い人に働きかけて広げていけば地域と繋がるかと考える次第だ。

**【青少年対策室長】**

先ほどの非行防止キャンペーンに青少年相談員も参加しているが、実際低迷しており人数を増やしてまた盛り上げたく、明日市立高校の生徒会に説明して働きかけようと思っている。また、林委員が座長をされている川口青少年ボランティア育成委員会と連携して、いろんな子どもたちが重複して活動してもいいと思うので、青少年相談員にもなって事業にも参加できたりするように相談しようと思っていたところだ。

**【議長】**

今までのお話だと、最初のステップとして青少年対策室がどういうアクションをとれるのか、どういう組織を利用してやるのか、例えば商工会議所あるいは他の企業にお願いをするとかということをもまずご検討いただくというのが一つ大きな方向性だと思った。

あと、非行防止キャンペーンでは、ポケットティッシュを配るのが目的ではなく、たくさん配ればいいのではなく、趣旨がもっとうまく伝わるような事業を考えるとよい気がする。たくさん配っても趣旨が伝わなければ何にもならないので、何か違う方法があるのかも含めてお考えいただき、皆様からアドバイスいただいた方がいいと思った。これは、私の個人的な意見である。

**【委員】**

そういう意味で一つ一つの事業に対する目標を設定していただいて、実績を何年か見ていただいて目標達成しないものは事業そのものの見直しを考えていただきたいとずっと思っているが、それは難しいのか。

**【青少年対策室長】**

青少年健全育成については、数値だけだと測れないものもある。やればいいということではないが、確かに参加率は低いけども、その裏にはいろんな事情があったりもする。ただそうは言っても、おっしゃるように実績を伸ばしていくというのは必要な姿勢だと思う。また、これが伸びないのであれば、見直してやめるのではなく、もっといい内容に見直していくのは必要なのかもしれない。

**【委員】**

改善だったら改善なりの目標を立てていただいて、そこまで持っていくにはどんな風に改善したらいいかということはお考えか。

**【青少年対策室長】**

具体的には今のところなかったが、ご指摘をいただいてそういう目でも見ていきたいと思う。

**【委員】**

難しいのであれば、委員の皆さんも意見が違ってくると思うが、可能か不可能かは私たちには見えないので、毎回このような議論となってしまう。

**【青少年対策室長】**

どの事業も連綿と続いておりまして、今すぐ改革、見直しというのは難しい。とは言え、このままでいいとか、決して見直しはありませんということではない。

**【議長】**

私の個人的な意見ですが、各事業それぞれいいところがある。私はほとんど参加しているが、非常に大きな意味があると思っている。通学合宿は子どもたちの自立には非常に役に立っているが、事業的には拡大が非常に難しい。事業としては非常に素晴らしい事業を今やられていると思う。けれども、各事業の実施後にチェックをすることを今まであまりやられてなかったのかなと思う。今回一つのきっかけになると思うので、ぜひ内容をチェックしていただいて、次回にはそれをまた加えていただければと思う。いかがでしょうか。

**【青少年対策室長】**

おっしゃる通りだと思う。こちらも既成の概念にとらわれすぎたのかもしれないので、色々ご意見いただいて、新たに分かることがあると思う。その振り返りや次に向けての反省をしていかなければならないと思っている。

**【議長】**

例えば、この事業をどうやればよいと思いますかと丸投げしてもよろしいか。

**【委員】**

仲間と一緒に考えそのご意見を聞くということだ。人が足りないならその課題をどう解決したらいいかというアイデアをシンプルにおっしゃっていただければ、商工会議所、中小企業同友会、男女共同参画もやっているの、全部自分の持っている繋がりを使っていただいてもいいといつも思っている。

**【議長】**

多分ここに来ている皆さんはご自分のご関係の組織に関してはトップの方だと思っているので、例えば青少年対策室の方から投げかけをしていただくと返ってくるのかなと考えている。

**【委員】**

非行でどれぐらい減らしたいとか数字でおっしゃっていただければ、予防をしていきたい。実際そうなった方の相談が多いので、本当に予防できるなら予防したいと思っている。

**【委員】**

少し話は異なるが、先ほど青少年非行防止キャンペーンで目的はティッシュの配布ではなく、非行防止というところで、例えばキャッチコピーなどを作って、毎年毎年変えてどう普及させていくか。普及の方法としては、川口にあるメディアを活用したりとかテレビであったり、そういったのも一つの方法なのかなという感想を持った。

**【委員】**

今の話の繋がりでもあるが、ティッシュに記載されていた情報は折り畳みのものか一面のものなのか知りたい。と言うのは、一般市民、通行人の皆さんにティッシュを撒くことは、困ってこれから万引きに入ろうかなと思っている青年もいれば、家に帰って誰もいない小学生もいれば、今イライラしていて子どもに愚痴の一つも当たり散らそうかなって思っているお母さんもいる。それ以外に育児中ではない人もいる。お子さんがいらっしゃらない人もいる。1人世帯の1人住まいの方もいろんな方がいる中で、その方たちにティッシュを配るのは、大海原に小石を投げるようなところがある。青少年自身だとしても困ったときの相談先とかが一覧表に折り畳みされていて、あとワンストップでそのQRコードにアクセスすれば、ものすごくたくさん相談先が見えるようにしてほしいと思う。だから、その10センチ四方にありとあらゆる情報を全部文字で載せるのは難しいと思うので、110番から市民の窓口までいろんな情報がありとあらゆる方が活用できるような情報が一緒にキャッチコピーと一緒にあったらいいなと感じた。

**【議長】**

ありがとうございます。今いただいた意見を非常に重要だと思う。私たちがティッシュを配る時に「非行防止キャンペーンです。」と言って配るのだが、そうではなくてもらう方にメリットがあるような情報、例えば「相談窓口の電話番号が書いてありますよ。」とかのやり方がいいのかもしれない。

**【青少年対策室長】**

青少年キャンペーンのティッシュはこういう形で、本当にこの大きさにキャンペーンのことと連絡先が書いてあるぐらいだ。呼びかける言葉をキャッチーなものにした方がよいというのは確かにそうかもしれない。ただ、本当に行き交う人々に一言じゃないと行ってしまうので研究、検討の余地があるとは思う。

**【議長】**

予定の時間よりだいぶ過ぎましたが、皆さんが活発に意見を言っていたのは非常にいいことだと思うし、青少年対策室のためには絶対に次のステップに進むと思わ

れるので、本当に今日はありがとうございます。最後に言っておきたいことがあれば、お聞きしたいと思う。

**【委員】**

外国人で言葉が全然わからない子たちが非常に増えている傾向がある。環境が悪く就労しながらの状況なので、学習支援はそういった外国人も対象となるのか。

**【青少年対策室長】**

子どもの生活・学習支援事業は、外国人に限らず小学3年生以上の生活困窮者世帯のお子さんが対象。また、日本語の勉強に特化しているわけではないので、日本語を勉強する機会としては学校や協働推進課で提供していると認識している。

(2) その他（連絡事項等）

**【議長】**

議題（2）その他について説明を求める。

〈 資料に基づき事務局からスケジュール等について説明 〉

〈 質疑応答 〉なし

**【議長】**

今日たくさんご意見をいただきましたので、私と会長代理及び事務局の方で内容を検討して次回会議で発表させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

**【各委員】** 異議なし

**6 閉会**

以上